

《被覆資材の特徴》

資材名	効果	特徴及び注意点
ラプシート	遮光	単独使用は水分の蒸散を助長する。
シルバーポリトウ# 80	保温・保湿・遮光	温度が上昇しやすいのでハウスの開閉をきちんとする。単独使用ではヤケの可能性が大きい。
ミラシート	保温・保湿・遮光	ハウスの開閉をきちんと行なう。
ラプシート + シルバーポリトウ	保温・保湿・遮光	効果が安定している。ハウスの開閉をきちんと行なう。
ミラシート + シルバーポリトウ	保温・保湿・遮光	効果が安定している。ハウスの開閉をきちんと行なう。

ラプシート（又はミラシート）とシルバーポリトウ# 80 の二重被覆	
方法	苗箱の上をラプシート又はミラシートで覆い、その上をシルバーポリトウ# 80 で覆います。
特徴	温度が上がりやすいので、ハウス内の温度は 30℃を超えないようにします。

【野ネズミ被害の対策】

●野ネズミの効果的な防除

(1) 防除時期：野ネズミの繁殖は春と秋が主であるため、早春（消雪時）と晩秋（11～12月）の2回防除を行いましょう。
ネズミの餌となる作物（畦草）が少ない時期に防除を行うと、防除効果が期待できます。

(2) 防除方法：野ネズミは繁殖力が旺盛で活動範囲も広いので、防除は広範囲にわたって一斉に実施すると効果が上がります。

※夏期に大繁殖することもあるので注意が必要です。



●殺そ剤による防除

薬剤名（名称）	使用方法	ネズミ穴投入法
硫酸タリウム粒剤（メリーネコタリウム）	ネズミがいると思われる穴に小袋を1つ投入する。	薬剤をネズミ穴に投入し、投入後は穴をふさぐ。

● 確実性を最大限に高めるためには、投入前日にネズミ穴をすべて足でつぶし、翌日再び開口した穴に薬剤を投入しましょう。

◎平成23年度セカンドサポーター養成講座の受講生募集のご案内



昨年度に引き続き開催と致します。ご興味のある方は、ぜひご参加お願い致します。尚、詳細は後日回覧いたしますのでご覧ください。

ご不明な点等がございましたら JA 米穀課（TEL777-3180）までお問い合わせください。

おいしい米づくり情報 No. 2

南魚沼市 NOSAI 魚沼 JA 魚沼みなみ
平成 23 年 4 月 6 日 発行

現在の消雪予想（4月1日現在）

● 六日町城内開発センター

積雪 123cm 消雪予想 4月21日

● 市役所大和庁舎

積雪 172cm 消雪予想 5月1日

※ 平年より消雪が遅れる見込みとなっています。育苗予定地の消雪が遅れる場合は、融雪促進資材等をご検討ください。

播種日の作業の目安・・・4月25日～30日頃

播種量は1箱 130～140 g（乾もみ：稚苗の場合）のうす播きへ

苗の種類	播種量のめやす（箱当たり）		必要箱数 （10 a 当たり）
	乾もみ	催芽もみ	
稚苗	130～140 g	160～170 g	16～18 箱

均一に播種するため

- ① もみは握っても手につかない程度に水切りをする。
- ② 芽を伸ばしすぎない（芽がおれたり、均一にまくことができません。）

稚苗の管理

▶ 出芽期の加温育苗管理のポイント

出芽期・・・育苗器は事前に点検し、サーモの作動状況を確認しておく。

- 出芽適温は **30～32℃** で、出芽長が 1 cm になったら終了します。
- 温度が高すぎると菌が繁殖しやすくなり、苗立枯病の原因となります。
- 出芽長が長すぎると徒長苗になりやすい。
- 緑化へ移行するときの温度格差が 15℃ 以上になると白化苗を生じやすくなるので、出芽最終段階で 20～25℃ に下げておく。

▶ 出芽期の無加温育苗管理のポイント

- 加温に比べ育苗日数が 2～4 日長めになります。
- 播種後 5～7 日で出芽揃いとなりますが、気温により変化します。
- 種籾の消毒、浸種を徹底し催芽の揃いを良くし、厚撒きは避ける。
- 播種後十分にかん水し、ハウス内の平床に並べ、被覆資材で覆う。
- 被覆資材の縁は苗箱下に折り込み、水分が逃げないようにします。
- 播種後 3～4 日頃に出芽状況を確認します。その際幼芽が覆土を持ち上げることが多いので、かん水して覆土を落ち着かせ、籾が露出したところは覆土を追加し、再度被覆します。

緑化期以降の管理は加温・無加温育苗ともに同じ

▶緑化期のポイント

ハウス内に温度計を設置し、温度を確実に確認し苗ヤケを防ぎましょう！

- 有孔ポリ等を敷いたハウス内に苗箱を並べ、被覆資材で遮光、保温を行います。
- 強い光や10℃以下の低温は葉緑素を破壊するため、白化苗の原因となります。
- かん水は被覆資材をはずし、午前中に1回たっぷり行う。
- 夕方のかん水は地温を下げるのでできるだけ行わない。
- 好天時はハウス内の温度が30℃以上にならないよう換気に努め、ヤケ苗を防止する。

! こんな時は注意

急激な温度変化に要注意!! (普段より暖かいなと思ったら要注意)
ビニールハウスの新しいビニールは光を良く通すので注意!!

▶被覆資材の除覆のタイミング

- 第1葉が完全に展開したら(草丈3.5cm程度)被覆資材を徐覆します。
- 完全除覆のタイミングが遅れると腰高になり、徒長苗の原因となります。

▶硬化期のポイント

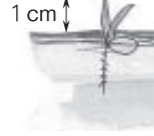
- かん水は1日に1~2回、夕方を避けて行う。
- 日中は外気温と同じになるようにハウスを開放しておく。
- 8℃以下の低温や20℃以上の高温にならないように管理する。
- 田植えに近くなったら、夜もハウスを開放し、外気に慣らす。
- 追肥は田植え4~5日前に5g程度硫安を施用してください。



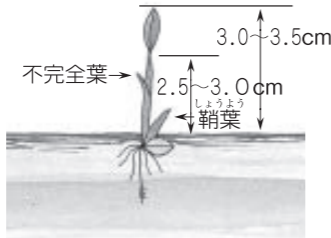
田植えは、5月20日以降をめやすに

稚苗の 生育目標

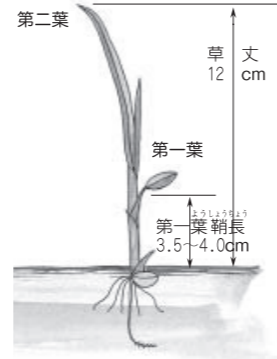
出芽終了期



緑化終了期



田植時



理想的な育苗日数

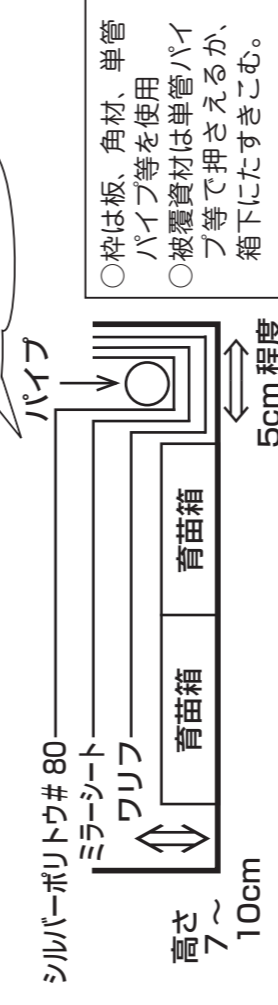
育苗ステージ	出芽期			緑化期				硬化期				硬化期後半					
	播種後日数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	~	14	15	16	17	~	24
温度管理	日中	30~32℃			20~25℃				15~20℃								
	夜間	30~32℃			15~18℃				10~12℃								
水管理	播種時に十分灌水			箱の周辺が乾いたら灌水				1日1回 (午前中に1回たっぷり)				1日1~2回 (午前たっぷり行い、夕方は避ける)					

露地水稲プール育苗(稚苗加温)と苗ヤケ防止対策

1 稚苗の育苗目標

は 種 量 130~140g/箱
(乾籾重量)
育 苗 日 数 20日
草 丈 12cm
葉 数 2.2葉
第1葉鞘長 3.5cm

2 育苗箱設置・被覆資材



置床直後の高温時は、一時的に被覆する。

- 枠は板、角材、単管パイプ等を使用
- 被覆資材は単管パイプ等で押さえるが、箱下にたすぎこむ。

3 追肥

床土面以上の湛水状態で以下のいずれかの方法で行う。
施用後2日間は落水しない。
(1) 硫安の直接施用
1箱当たり5g程度を施用
(2) 液肥の流し込み
液肥100倍程度で、流し込む。

育苗日数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
生育ステージ(日数)	出芽期(2~3)			緑化期(2~3)			硬化期(13~15)																	
プールの水管理等	○出芽後、プールに育苗箱を並べる。 ○育苗箱(プロック毎)と枠の間を5cm程度あけ、水回りを良くする。 ○土の乾燥や晴天時の苗出し等の場合、必要により被覆前にかん水する。			○箱上のフリフとミラシートの二重被覆とする。高温時はシルバーポリウ#80で一時的に覆う。 ○出芽から緑化では、白化苗に注意する。			○入水は硬化初期(葉数1.0~1.2葉)。最初は床土面まで灌水する。 ○水深が浅い所で、箱の1/3以下になったら、草丈の半分以下まで灌水する。			○低温が予想される場合は、一時的に深水管理を行う。その後、通常の水管理。			○移植の4~2日前に落水する(苗の運搬を容易にする)。 ○低温時の移植はさける。			○田植え5日前に追肥 窒素成分2~1g/箱(軟弱・徒長の場合には施葉しない)								
被覆管理							○ミラシートの除覆は緑化終了から硬化初期(第1葉鞘長3.5cmがめやす)。 ○高温時のヤケ、霜害に注意。			○フリフの除覆は硬化の中期頃。 ○低温時は保温資材で被覆する。														
温度管理	30℃ 細菌性病害対策			20℃~25℃ 15℃~18℃			15℃~20℃ 10℃以上			徐々に外気温にならず 徐々に外気温にならず			20℃以下にしない 8℃以下にしない											

●苗ヤケ防止について

露地のプール育苗でも苗ヤケは発生します。その多くが緑化期(プールに並べて2~3日)に発生しますので、除覆・入水までの期間の管理は十分な注意が必要です。

●苗ヤケ発生防止のポイント

- (1) 苗箱土壌の水分が不足するとヤケやすくなるので、十分湿った状態で箱を並べる。
- (2) 水分が蒸発しないように被覆資材で巾着と覆う。
- (3) シート上に水が溜まるとその部分がヤケてしまうので、降雨後はホウキやブロワーで水を払う。

